

インドとインド人技能実習生についてよくある質問

インドについて

1. インドと日本の時差は？
 - a. 日本はインドより3時間30分進んでいます。
2. インドの平均所得は？
 - a. インドは貧富の格差、また都市部と農村部の賃金の格差が大きく、国民の平均的な所得を語る事は難しいです。
弊社実習候補生の職業別おおよその月収は下記の通りです。失業率は非常に高いです。

農業:約 8,000 ルピー (約 12,000 円)	商業:約 6,600 ルピー(約 9,500 円)
工業:約 12,000 ルピー(約 17,000 円)	サービス業:約 13,000 ルピー(約 18,000 円)
建築:約 9,000 ルピー(約 13,000 円)	
3. 主にインドではどんな作物が生産されていますか？
 - a. 主たる作物は
穀物:米、小麦、とろろこし、豆、
根菜:じゃがいも、にんじん、大根、玉ねぎ、にんにく、
葉野菜・果菜:キャベツ、ほうれん草、トマト、かぼちゃ、きゅうり、うり、とうがらし、
果実:バナナ、マンゴー、パパイヤ、
香辛料などです。
 - b. 近年都市部においては無農薬野菜の需要も高まってきております。

インド人の特徴

1. インド人は何語を話しますか？
 - a. 地域により話される言語は異なります。ただし、人口の半数以上が公用語であるヒンディ語を話します。多くの者はある程度英語を理解できますが、話すことはあまり得意としません。
2. インドの平均年齢は？
 - a. 25歳です。
3. インドの食習慣は？
 - a. ほとんどのインド人は牛肉や豚肉を食べません。ベジタリアンも少なくありません。
4. インド人は礼拝の為に休憩を必要としますか？
 - a. インド人の80%はヒンズー教徒です。ヒンズー教徒は礼拝のために仕事を中断する必要はありません。

ロヒアコープ・募集・研修・選抜

1. ロヒアコープの拠点について
 - a. 弊機関はインドの州の中でもっとも人口が多い北部のUP州を拠点としております。東京にオフィスを構え受入企業様、監理団体様及び実習生のサポート体制を築いております。
2. スタッフは何人ですか？
 - a. インドには日本人2名を含む約10名のスタッフがおります。インド側は、10年間タイ王国の技能実習生送り出し機関を統括してきた日本人がオペレーションの指揮をとっております。
 - b. 研修は日本人とインド人の教師の組み合わせで行われます。
日本語入門学習開始時より日本人講師がメインで授業を担当します。最初の数カ月はインド人講師のアシスタントがつきますが、最終的には日本人講師による日本語だけのレッスンとなります。
3. 研修センターについて
 - a. 弊機関は大手機械製造会社の研修部門の一部であり、その研修施設を利用し研修を実施しております。機械操作訓練設備、農園、学習教室、寮、運動施設を備えています。
4. インドのどの地域から募集していますか？
 - a. 北部と西部より募集しています。
5. どのようなトレーニングが実施されていますか？選考・選抜のプロセスは？
 - a. ハングリー精神をもったモチベーションの高い応募者のみを入学させます。

- b. 日本の考え方に合った実習生、また入国後のトラブル発生を軽減させるべく厳しいスクリーニングを実施します。
- c. 每期プログラム候補生は、約 500 名程の入学希望者の中から 20 人程の候補者を選抜します。
- d. 全 5 か月間の研修期間は、全寮制でマナーとルールを学び、協調性を体得させます。
- e. 研修期間中の候補生負担は月額日本円換算額 7,000 円の寮・食事代のみです。不真面目な者、日本での実習にそぐわない者は躊躇なく除籍処分とします。

ロヒアコープの実習生

1. 日本語能力は？
 - a. 日本語学校で行われている様な文法学習は致しません。会話にしばった学習をさせます。堪能ではありませんが、入国時には日常生活において意思疎通は出来るレベルへの到達を目指し学習させます。
 - b. 受け入れ先のご要望に応じた単語、フレーズ、概念をカリキュラムに組み入れも可能です。
2. 他国の実習生との共同生活に問題はありますか？
 - a. 候補生たちはインドの様々な地域から来ており、言語も食習慣も異なります。共同生活が出来ない者は、日本の企業様に紹介されません。他国の実習生との共同生活にも問題はありません。
3. 実習生は日本に来るときに借金を抱えていますか？
 - a. 多くの者は日本円換算額約 30 万円の研修費を借金をして返済致します。実習生のためのローン支援システムも手配しております。研修費は実習生の日本での給与の 3ヶ月分の以下額です。
4. 通訳者がいないのですが、どうしたらいいですか？
 - a. 日常日本語会話能力に問題のない候補生をご紹介します。今まで入国した弊社実習生のケースでは、通訳者が必要となる場面はあまりありませんでした。法的講習、検定試験や健康診断等、専門的用語の説明が必要となる場合、通訳が必要となると考えます。弊社ヒンディ語通訳スタッフは東京に常駐しております。必要に応じサポートを致します。

送り出し実績

1. 今までに送り出した実習生について
 - a. 現在、10 名が日本で実習中です。さらに 7 名は入国手続き中です。
 - b. 受入先より実習生の仕事ぶりは高く評価されており、満足の声を頂いております。

失踪・帰国後の対策

失踪の問題にどのように対処しますか？

1. 失踪が起こるいくつかの要因は、実習生が本国側で抱える以下の問題が理由と考え、その対策を講じております。
 - a. 多額の借金を抱えている: 募集から研修、送り出しに関わる全ての工程は、エージェント・ブローカーを通さず自社で行います。実習生が支払う費用は日本円換算額約 30 万円の研修費のみです。入国後 1 年以内にローンを完済出来る額以外の借入金は抱えておりません。
 - b. 日本での実習について十分な説明を受けていない: 企業面接応募時に、雇用条件、仕事内容、周辺環境を十分に周知させ、本人が納得した募集案件に対してのみ応募させます。
 - c. 実習生の素性を事前に十分にチェック出来ていない: 企業様にご紹介します候補生は、最低でも 3 か月間の研修期間を経ております。安心して送り出すことが出来ないと見極められたものに対しては、研修受講自体を中止させます。
2. 帰国後、実習生のために仕事の機会を作っています。
 - a. 多くの日系企業がインドに工場を設立しており、日本での就業経験を持つ実習生を採用したいという声は多く頂いております。帰国後は、実習開始前と比べ段高い給与レンジでの仕事が見込めます。

インド送り出し機関ロヒアコープリミテッド日本支社(認定済み)

電話 (050) 5806-1710 | ファックス (03) 4243-3692

ホームページ: <https://www.lohiagroup.co.jp/> | Eメール japan@lohiagroup.com

LohiaCorp